大内董平著

訟庭要覽

三

東京圖書館

新門	函 一四
一一部	架 三
類	號 〇五〇四

CZ
771
06

共四本

TOKYO LIBRARY
東京書籍館
明治五年
創立
FOUNDED BY MOMBUSHO 1872.
こと
ク71
06

法規要覽第三
書籍館蔵

法規要覽第三

明治八年内務省達刻号交付

大内董平著

○郵便犯則ノ者處分ノ事

第一条（明治六年十月制定）驛遞頭ハ郵便ヲ司ル ノ任ニ当ル ト雖モ尋常傭夫ノ之ヲ傳送スル者ト同般ニ非ス又郵便役所ハ危難受負ノ所ニ非ス故ニ遞送ノ際信書其他ノ物品ヲ紛失シ或ハ配達ノ間之ヲ誤リ達シ或ハ遲延スル アリ 是

ヨリ生スル損失不便宜ヲ償スル責ニ当ツヘカラサル事

第二条 同上 駅遞頭ハ投書ヲ開封シ郵便役所ハ総テ郵便規則ニ遠フ信書等ヲ梗留スルノ権アル事

第三条 同上 内務司法ノ両卿ハ条理適当ノ場合ニ於テハ郵便傳送ノ信書其他ヲ開封或ハ梗留シ及ヒ他ニ之ヲ開封或ハ梗留スルヿヲ許スノ権アリトス然レ𪜈之ヲ開封セハ必ス之ヲ駅遞頭ニ報知スヘキ事

第四条 同上 内務司法両卿ノ免許ヲ受ケス故ニ郵便遞送ノ信書等ヲ開封或ハ梗留スル者ハ五十円以上百五十円以下ノ罰金ニ處スヘキ事

第五条 明治六年五月一日制定 同七年一月一日改正 郵便役所ヲ勤ムル者士官傭人ヲ論セス信書ヲ盗ミ或ハ隠スヿアラハ百三十円以内ノ罰金ニ處ス但其犯情通貨及ヒ物品ヲ盗ムニ出ル者ハ新律ニ照シテ處断スヘキ事

第六条 同上 総テ郵便ノ信書ヲ盗ム者ハ百円以内ノ罰金ニ処ス其遞送ノ際行嚢行李ヨリ信書

ヲ出シテ通貨及ヒ宝器ヲ盗ミ出シ或ハ之ヲ奪ヒ或ハ信書通貨ヲ盗ミ奪ハン為メニ行兇ヲ止メテ其中ヲ探ル者ハ新律ニ照シテ處断スヘキ事

第七条 明治五年九月二日制定 同七年一月一日改正 郵便掛官員及ヒ配達人等尋常ノ信書及ヒ郵便物ヲ遺失スル者ハ三十四以内ノ罰金其官書官物ニ係ル者ハ重ニ従テ処断シ書留郵便物ヲ遺失スル者ハ四十四以内ノ罰金其官書官物ニ係ル者ハ重ニ従テ処断スヘキ事

但水火盗賊ニ依リ毀失スル者ハ此限ニアラス

第八条 明治五年一月一日制定 郵便役所ヲ勤ル士官傭人ヲ不論表書ニ記載スル地名明了ナル郵便物ヲ粗忽怠慢ノ故ヲ以誤テ郵便規則ニ違フ者ハ十四以内ノ罰金又故意之ヲ他ニ配達スル者ハ六十四以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第九条 同上 郵便役所ヲ勤ル者ハ勿論免許ヲ得タル賣下ケ人ト雖モ郵便切手ヲ糶賣スル者ハ五十四以内ノ罰金又其糶賣シタル郵便切手

ヲ買取ル者ハ二十円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十条（明治六年壬申一月一日制定）郵便物ヲ安全ナラシムヘキ備ヘヲ以テ設ケアル郵便箱ノ中ニコレアル信書等ヲ故ラニ損害シ表書ヲ消シ或ハ破ル者且之ヲ助ケル者ハ六十円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十一条（同上）日誌新聞紙其他ノ上木物無封或ハ開キ封ニテ郵便逓送ノモノヲ破リ或ハ梗留スルモノハ六十円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十二条（明治六年壬申一月一日制定　同七年一月一日改正）凡ソ情ヲ知テ他ノ盗ミタル信書或ハ行嚢ヲ陰ニ預リ置ク者ハ七十五円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十三条（明治六年壬申一月一日制定）郵便役所ヲ勤ムル者ノ盗ミタル品ヲ知テ買取リ或ハ囑ヲ受ケテ賣ル者ハ百円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十四条（同上）信書ヲ逓送シ郵便税ヲ收ムル特権ハ独リ駅逓頭ニ附與スルノミ故ニ何族何官何業ノ者ニテモ駅逓頭ノ獨仕スル特殊ノ権外ニアラサル信書ヲ一切逓送配達スヘカ

ラス若シ之ヲ犯シテ遞送配達スル者ハ二百
円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第十五条 同上 信書ヲ差出ス者ト云ヘトモ前条ノ法
ヲ犯シ郵便役所郵便取扱所及ヒ郵便箱ノ外
ニ之ヲ出ストキハ二十円以内ノ罰金ニ処スヘ
キ事

第十六条 同上 駅遞頭ノ獨任スル特殊ノ権ハ全ク
書状ニ限リ新聞紙類書籍見本品及ヒ貨幣且
書状ト雖モ左ノ記載ノモノハ此限外ニ候条
何人ニテモ之ヲ遞送配達シ得ヘキ事

第一 明治六年五月百制定同七年一月一日改正 親族朋友及ヒ従僕等ヲ以テ
直ニ達スル書状

第二 同上 郵便發程ノ時日ヲ待合難キ至急ノ事
故等ヲ以テ其書状ヲ差出ス人或ハ受取ル
人ノ自用ニ就テ人ヲ傭ヒ其用事ヲ達スル
書状

第三 明治六年五月一日制定 諸官状公令公訴ノ書状

第四 同上 船或ハ車等ノ持主及ヒ其船車等ヲ以
テ積送ル荷物ノ持主ヨリ賃銭手数料ヲ拂
ハス受取ラス其船車ノ業且荷物ノ事ニ付

キ其召使ノ者ヲシテ互ニ往復配達セシム

ル書状

第五 明治七年一月一日制定 上尋常運輸ヲ以テ業トスル者ニ依テ送

ル荷物ニ就キテ送レル添状送リ状ノ類ニシ

テ別ニ賃銭手数料等ヲ拂ハス受取ラス其

荷物ト共ニ達スヘキ書状

第六 明治七年一月一日制定 荷物ニ就テ送レル添状送状ノ類

ハ無封無緘或ハ開キ封ノモノトス

第十七条 明治六年壬申一日制定 同七年一月一日改正 前条ニ記載スル限外信書

ノ仕方ヲ偽リ窃ニ之ヲ傳送配達スル者ハ第

十四条ニ照シ處断スヘキ事

第十八条 明治六年壬申一日制定 左ニ記載スル者ハ別段厳重ニ

信書ノ取扱ヲ禁止ス故ニ喩ヘ賃銭手数料等

ヲ受取ラサルモノト雖モ前ノ限外ノ書状ノ

他ハ一切之ヲ集メ之ヲ受取リ之ヲ傳送配達

スヘカラス若シ之ヲ犯ス者アラハ第十四条

第十七条ニ照シテ處分スヘキ事

第一　諸陸運會社定飛脚會社或ハ問屋及ヒ

飛脚渡世馬車會社牛馬會社等一切陸運ヲ以テ

業トスル者其員ハ勿論召使又ハ他方ノ取

扱人ニ至ル迫乗車荷車牛馬人夫ヲ論セス
御者別当口取口附ノ者ニ限ラス一切是レ
ニ関スル者

第二　諸蒸気船風帆船押送船西洋形日本形
ニ拘ハラス別シテ飛脚船早船渡海等ト唱
ヘ旅客ヲ載セテ航スルモノ及ヒ期日ヲ定
メテ出船スルモノ総テ皇國環海ノ濱岸ニ
沿ヒ皇国内ノ諸港諸湾ノ間ニ往来スル諸
船ノ持主船長役員水火夫ヨリ従僕取扱人
ニ至ルマテ一切コレニ関スルモノ

第三　蒸気帆前艫棹挽船ニ限ラス皇国内ノ
湖水川溝ヲ往来スル諸船ノ持主及ヒ水夫
等ニ至ル迫一切是レニ関スルモノ

第四　蒸気車馬車蒸気船早船等ニ乗テ屢々
諸方ニ往来スヘキ稼業ノモノ

第十九条　円上　駅逓頭ヨリ郵便物ノ運送ヲ約定シ
タル水陸運輸稼業ノ者ト並モ郵便切手コレ
ヲキ信書ヲ運送或ハ配達スルニ於テハ第十
四第十七両条ニ照シテ処分スヘキ事

第二十条　明治六年五月一日制定　四七年一月二日改正　郵便切手及ヒ封ヒ印紙

封囊ハ諸郵便役所并官許ヲ受ケテ大書ノ郵便切手賣下所ノ看板ヲ掲クル家ノ外一切賣ルヿヲ禁スル之ヲ犯シテ賣ル者ハ百円以内ノ罰金ニ處シ其賣リタル品并代金且賣ラントスルノ品ヲモ可取上事

第廿一条 郵便役所并官許ヲ得テ看板ヲ掲クル家ニアラサルモノヨリ私ニ同種ノ切手及ヒもうかき印紙封囊三枚以上ヲ買フヿヲ禁スヿヲ犯シテ買フ者ハ二十円以内ノ罰金ニ処シ其買受ケタル品ヲモ可取上事

第廿二条 一度用ヒタル郵便切手もうかき印紙封囊帯紙及拂濕ノ証印等ヲ消シタル墨ヲ洗ヒ或ハ之ヲ削リ取リ再度用ヒシ者ハ六十円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第廿三条 郵便切手もうかき印紙封囊及ヒ拂濕証印ヲ偽造スル者ハ九十円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第廿四条 明治六年壬申一月制定 郵便役所ヲ勤ムル者私書ヲ公書トナシテ往復シ且郵便切手コレナキ書状等ヲ私ニ取扱フ者ハ百円以内ノ罰金ニ處ス

ヘキ事

第廿五条 四上 弱ニ通貨ヲ書中ニ封入シ送ルモノ
ハ二十円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第廿六条 明治七年一月一日制定 郵便先拂税及ヒ不足税ヲ最初
配達ノ時ヲ除キ郵便役所ヨリ受取ノ為メ使
ヲ送ル五度ヲ過キテ猶拂ヒ納メサル者ハ二
十円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第廿七条 四上 姓名類似セル郵便物ヲ開封セシキ
ハ速ニ其類似スル所以ヲ記シ之ヲ其近傍ノ
郵便役所又ハ郵便取扱所ニ申牒シ郵便役所

又郵便取扱所ハ之ヲ駅逓頭ニ申牒スヘシ若
シ之ヲ申牒セス或ハ之ヲ投棄ニ附スル者ハ
二十円以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第廿八条 四上 某官廳某家ニ属シ又ハ住スル某人
ニ名宛シタルヲ以テ某廳或ハ某家ニ配達セ
シ郵便物ヲ某人ニ達セス或ハ其人員廳ニ属
セス其家ニ住セサルキ之ヲ郵便役所ヘ差戻
サス等閑ニ附シ或ハ投棄ニ任スル者ハ三十
円以内ノ罰金ニ処スヘキ事

第廿九条 四上 郵便役所ヲ勤ムル士官傭人ヲ不論

郵便切手ヲ削取リ不足税ト偽ル者ハ第五条ニ照シテ処断スヘキ事

第三十条 郵便配達人等其配達先於テ慢ニ金銭ヲ乞フ者ハ其乞受タル金銭ヲ取上ケ其金高十倍ノ罰金ニ處スヘキ事

亜墨利加合衆國ト郵便交換條約

第四条 明治七年六月七日太政官第六十二号御布告

日本ヨリ合衆國ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アル時ハ其不足税ヲ取立ルノ外更ニ一通ニ付六セントノ過料ヲ取立合衆國ノ郵便局ニ

收入スヘシ又合衆国ヨリ日本ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アル時ハ其不足税ヲ取立ルノ外更ニ一通ニ付六錢ノ過料ヲ取立日本郵便局ニ收入スヘシ

○證券印紙犯則ノ者処分ノ事 明治七年七月廿九日太政官第八十一号ヲ以御布告

第四則 賞罰例

第一条

一證券界紙相用フヘキ証書類ニ証券界紙ヲ用ヒサル者ハ脱税高界紙定價三種平均五厘ノ二拾倍則拾錢

其証書ヲ受取タル者ハ脱税高ノ拾倍則五過料タルヘキ事

第二条

一第一類第二類第三類ノ證書ニ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高ノ二拾倍其証書ヲ受取タル者ハ脱税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第三条

一第一類第二類ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高ノ貳拾倍過料タルヘキ事

第四条

一第一類第二類証券印紙貼用ノ帳簿見積金高附込相決餘白ノ紙数之レアルトテ第三則第四条ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第五条

一第三類ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高譬ヘハ無印紙ニテ一ケ年未満相用フル者ハ則貳拾戔ノ脱税ニケ年未満ル者ハ則四拾戔ノ脱税ニ当ル類ナリ相用フル者ハ則以上之ニ準シ一ケ年以内貳拾戔ツヽノ割合ヲモツテ之レノ六倍過料タルヘキ事ヲ筆ス

第六条

一第三類証券印紙貼用ノ帳簿期限相満餘白ノ紙数之レアルトテ第三則第四条ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附辺候者ハ脱税高壹倍ノ四倍過料タルヘキ事

第七条

一諸証書帳簿ニ証券印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ其減税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第八条

一規則ニ従テ貼用セシ諸証書帳簿ノ証券印紙ニ調印セサル者ハ三拾円以下ノ過料タルヘキ事

第九条

一証券印紙ヲ貼用セサル欤又ハ印紙不足ナル欤或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル欤又ハ界紙可相用諸証書ニテ界紙ヲ用ヒサル証書ヘ証人ニ相立又ハ奥書等致シ候者ハ貳拾五円以下ノ過料タルヘキ事

第十条

一官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四条ニ背キ証券印紙ヲ賣捌致シ候者ハ其品取上ケ既

ニ賣捌タル○印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ
○界
之ヲ買フ者ハ其品取上ケ○印紙代ノ五拾倍
○界
過料タルヘキ事

第十一条

一証券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸
帳簿ニ調印イタシ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨ
リ取立候過料高百分ノ一ツヽ各過料タルヘ
キ事

第十二条

一一旦相用ヒ調印セシ証券印紙ヲ再用セント
シテ之ヲ剥取リ調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅
シタルモノト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ
賣買スル者ハ六拾円以下ノ過料タルヘキ事

第十三条

一証券○印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト
知テ是ヲ賣買スル者ハ都テ九拾円以下ノ過
料タルヘキ事

第十四条

一前数条ニ掲クル類ノ犯則人ヲ見届ケ訴出ル
者アルトキハ事実取糺ノ上相違ナキニ於テハ

其賞トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事

○蚕種并原紙犯則ノ者處分ノ事

第四条 明治七年二月内務省御布達

一蚕種出来揚リノ節原紙贏餘有之候共決テ流用者不相成候条其地方管轄限リ取纏メ其年九月十五日迄ニ最前買受候節ノ手續ヲ以最寄賣捌所ヘ差出代價下戻相願可申其侭捨置更ニ翌年ノ用ニ供シ候儀決テ不相成候万一違犯ノ者有之ニ於テハ其品取上ケ原價二倍ノ科料取立可申事

第五条

一原紙流用ノ儀万一違犯ノ者於有之ハ春季夏蚕ノ種類ヲ不論双方共一枚ニ付新貨五拾錢宛ノ科料取立可申事

第一則十五節 明治六年四月大蔵省第百四十号御布達

一免許印紙無之蚕種紙内外賣買堅ク禁止若シ違犯密賣買等イタシ候ハヽ買受候者ヨリ其品取上ケ賣渡候モノハ賣代金取上ケ双方免許印紙料十倍ノ科料取立可申事

第二則第一節ノ但書

但蚕々春蚕ノ原紙又ハ自仕ノ紙ニ製造賣買致シ相顕ルヽニ於テハ買受候者ヨリ其品取上ケ賣渡シ候者ハ賣代金取上ケ双方共蚕種一枚ニ付金五拾錢宛ノ科料取立可申事

同弟二節

一餘付再出ノ製造并粗班ノ蚕種ヘ散卵ヲ以テ糊付補裝等イタシ候儀等ハ一切不相成万一犯則ノ者有之相顕ハルヽニ於テハ其品取上ケ前条但書仝様科料取立可申事

同弟三節

一蚕種ノ儀ハ都テ産出ノ仕一切手入等致間敷若シ見場不宜ヲ厭ヒ白巣接取跡又ハ産付班等ヘ他ノ卵ヲ以テ補裝イタシ候モノハ假令其品精良ニ候トモ取上ケ前条同様ノ科料取立可申事

同弟五節

一原紙ハ濾立ヲ始メ賣捌之儀ハ兼テ及布達候規則ノ通押印ノ上拂下ケ候条内外用ハ勿論自用種タリトモ右規則ニ背キ候原紙ヘ仕付

但儀ハ不相成万一犯則ノ者ハ其品取上ケ前条同様ノ科料取立可申事

同第六節

一蚕種製造人共事故アリテ自家ニテ難製者ハ他家借受製造ノ儀ハ不苦候得共両三名申合生繭持寄蚕種紙製造ノ儀ハ一切不相成万一犯則ノ者ハ其品取上前条同様科料取立可申事

但結社ノ上製造所設置全ク不混合同品ノ蚕種紙ヲ以テ掃立養蚕イタシ候ハ此限ニ

アラサル事

同第七節

一密々蚕種製造イタシ他ノ製造人名判等借受押印ノ者本人ハ其品取上ケ名判貸遣シ候者

一同前条同様ノ科料取立可申事

第三則第八節

一総テ右規則ニ戻リ候取扱有之候ハヽ咎可申付候事

但大総代各分割内ノ吝詰役不正ノ筋有之候ヲ不心付外方ヨリ相顕ハルヽニ於テハ

其大総代ノ可為越度ニ付其科ノ軽重ニヨリ十円ヨリ三十円迄ヲ科料トシテ可取上若又自分不正ノ事ヲ相謀候カ又ハ不正ノ者ヘ黨與イタシ候儀相顕ハルヽニ於テハ規定ノ年限ニ不拘役儀召放二百五拾円以上ノ科料金ヲ取上ヘシ且其職ヲ怠リ持場内恊和セサルトキハ年限中ニテモ他ノ相当ノ者ヲ公撰ノ上交代セシムルヿアルヘシ毋詰役其組中ノ者不正筋之レアリ候ヲ不心付シテ外方ヨリ相顕ハルヽニ於テハ其毋

詰役越度タルヘキニ付其科ノ軽重ニヨリ三円ヨリ拾円迄ヲ科料トシテ可取上若シ又毋詰役自分不正ノ事ヲ相謀候歟又ハ不正ノ者ヘ黨與イタシ候儀相顕ハルヽニ於ハ規定ノ年限ニ不拘役儀召放縱令勤年限未満ニ候共七拾五円以上ノ科料金ヲ取上ヘシ且毋詰役其職ヲ怠リ又ハ其組内ニ恊和セサル時ハ年限中ニテモ他ノ相当ノ者ヲ撰ヒ交代セシムルヿアルヘシ

第四則第二節 明治七年二月八日太政官第十七号ヲ以追加

一総テ右規則中其品取上科料取立ノ事ヲ記載セサル条ニ背ク者ハ五円以内ノ罰金可申付事

○生糸犯則ノ者處分ノ事

第八条（明治六年三月大蔵省御布達）

一各管内無鑑札ニテ賣買致シ候者有之於相顕ハ其品取上鑑札料貳拾倍ノ科料可申付事

第九条

一生糸賣買鑑札ハ自己ノ相對ヲ以他人ヘ貸與ヘ候儀ハ決テ不相成候事

但万一私ニ貸與候モノ有之相顕ハルヽニ於テハ鑑札料五倍ノ科料金取上可申事

生糸製造瓦締規則追加中

右化装紙ハ勿論巻紙類等都テ一旦相用候紙ヲ復ヒ相用候儀ハ決テ不相成万一右様ノ者有之ニ於テハ其生糸取上相当ノ過料可申付事

第十二条（明治六年一月大蔵省御布達）

一明治六年第六月一日以後ハ印紙無之生糸並繭真綿等密賣買致シ候節ハ其品取揚買受人

一総テ右規則中其品取上科料取立ノ事ヲ記載セサル条ニ背ク者ハ五円以内ノ罰金可申付事

○生糸犯則ノ者處分ノ事

第八条（明治六年三月大蔵省御布達）

一各管内無鑑札ニテ賣買致シ候者有之於相顕ハ其品取上鑑札料貳拾倍ノ科料可申付事

第九条

一生糸賣買鑑札ハ自己ノ相對ヲ以他人ヘ貸與ヘ候儀ハ決テ不相成候事

但万一私ニ貸與候モノ有之相顕ハルヽニ於テハ鑑札料五倍ノ科料金取上可申事

生糸製造瓦締規則追加中

右化装紙ハ勿論巻紙類等都テ一旦相用候紙ヲ復ヒ相用候儀ハ決テ不相成万一右様ノ者有之ニ於テハ其生糸取上相当ノ過料可申付事

第十二条（明治六年一月大蔵省御布達）

一明治六年第六月一日以後ハ印紙無之生糸並繭真綿等密賣買致シ候節ハ其品取揚買受人

製造人共其價ノ二十分ノ一科料可申付事

○鉄道犯則ノ者處分ノ事

第一条（明治六年三月十三日太政官第百一号ヲ以御布告）

一鉄道掛ノ者総テ鉄道上ニ関カル事務取扱中醉ニ乗シ無状ヲ現ハスニ於テハ二拾五円以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰軽忽ニヨリ鉄道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルトキハ其事情ニヨリ五百円以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁錮ニ処ス

第二条

一規則第四条ニ記スル所ノ不法ヲ為ス者ハ貳拾五円ノ罰金或ハ三十日ノ禁錮ニ処ス

第三条

一規則第五条ノ禁ヲ犯ス者ハ拾円以内ノ罰金ニ處ス

第四条

一規則第六条ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ没シ貳拾五円以内ノ罰金ニ処ス

第五条

一規則第七条ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ没

シ拾円以内ノ罰金ニ処ス

第六条

一規則第八条ニ記セル所行ヲ為ス者ハ拂タル賃金ヲ没シ貳拾五円以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁錮ニ処ス

第七条

一規則第九条ニ記スル所ノ不法ヲ為ス者ハ五拾円以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁錮ニ処ス

第八条

一規則第十条ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五円以内ノ罰金ニ処ス

第九条

一規則第十一条ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五円以内ノ罰金或ハ三十日ノ禁錮ニ處ス

第十条

一規則第十五条ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五円以内ノ罰金ニ處ス

第十一条

一規則第十七条ニ記スル所ノ諸荷物品書其外

ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物ヲ出ス者ハ三ヶ月以内ノ懲役又ハ禁錮或ハ其品物一噸千七百竹ヲ云コトニ貳拾五円ノ罰金ニ処ス一噸以下ハ拾円ノ一罰ノ贖金高五百円ニ過キス

第十二条

一鉄道附属品ヲ頽損スル者ハ第七条ニ照シ罰金ヲ科スルノ外其頽損物ノ代價ヲ償ハシムルヿアルヘシ但其償金ノ追徴モ鉄道寮ヨリ法官ヘ乞フ片ハ法官ニ於テ追徴スヘシ

○坑法犯則ノ者処分ノ事

第四条明治六年七月太政官第二百五十九号ヲ以御布告

一日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑邑ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルヿヲ得ス坑産ノ割合及損益ニ関係スル所ノモノハ都テ組合トス若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ属スル所有物ヲ官ニ没入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第五条三項

一地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レ𪜈自ラ試堀ノ

資本無クシテ他人ノ拳ヲ拒ミ或ハ不当ノ償金ヲ貪ラハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六条（二項）

一凡産鑛ハ借區券ヲ（第十欵ニ出ス）得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ没收スヘシ

第十五条

一通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルヿアラハ通洞発起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ

對談穩当ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷フヘシ

第十六条

一都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ為ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スヿナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其軽重ニ從テ罰金ヲ徵スヘシ

第十七条

一試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鉄道河流及ヒ道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ

避クヘシ凡場所ノ主タル者応諾スルニ非ス
シテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ余
ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費
ハ其主ニ附与スヘシ

第十八条

一凡初発許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ
見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背
ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

第十九条

一開坑人ハ歳々一月七月両度毎ニ前六ヶ月間
ニ産出セシ坑物量其賣出高并代價及行業日
数工数ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知スヘシ
有鑛質ハ坑産量并製出量且製出セシ混清物
二種以上ノ金属ヲ含有スルハ其試験ノ割合
ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘ
シ

右数量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾円ト
ス若賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セ
シ高ノ三倍ヲ徴收ス可シ

第二十条

一通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ付テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者実ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一条

一坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シテ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センヲ求ムルニ於テハ不当ノ償金ヲ貪ル可ラス若シ相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ

第二十二条

一凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鎔鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ与ス可シ若シ異論決セスンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ルヘシ

第二十三条

一総テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ鑛

山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四条

一凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ双方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ乞フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五条

一坑業ヲ廢セントト欲スル者ハ竪坑ノ口ヲ掩ヒ又柵囲ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其竪坑ヲ当然ニ堅固セシヤ且坑内ノ営繕完全存在スルヤヲ検査スヘシ若疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第二十八条

一鑛山寮ヨリ疎水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ為メニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第三十二条

一試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸条欵ニ記セル税或ハ罰金償金等ヲ納メサル片其業ニ属セル所ノ運移スヘキモノ殘ラス鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去

リ其残金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三条

一凡坑法ノ意旨ニ戻ル過失アル者ハ軽重ニ從テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハヽ國律ヲ以テ論処スヘシ

○公債証書犯則ノ者霊分ノ事

第十一条 明治六年一月廿八日太政官第百九一号ヲ以御布告

第一節何人ニ不拘公債証書ヲ私ニ剥去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊付ニスル等ノ事ヲナス可ラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上

其金高十倍以上ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節何人ヲ論セス此公債証書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知テ通用セシメ又ハ証書ノ罔画文字ヲ変換シ又ハ人ヲシテ変換セシメ又ハ変換セシモノト知テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雛形ノ画画文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ処スヘシ

第六条 改正 明治七年六月十七日太政官第六十六号ヲ以御布告

第七節右証書管轄違ニテ譲渡賣買等ノ事アレ

ハ甲ノ管廳ヨリハ即日乙ノ管廳ヘ其証書ノ種類記号金高及名面取引ノ年号月日ヲ詳記シ送達スヘシ若シ其送達ヲ甲ノ管廳ニテ怠ルアレハ乙ノ管廳ヨリ之ヲ督促シ主任ノ官員ハ違令ノ罪ヲ以テ処スヘシ且大蔵省ヘハ一ヶ月分ヲ翌月五日迄ニ取調無遅滞届出ヘシ

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ猶賣買スルヲ差止メ置ヘシ

第八節都テ譲渡シ賣買等此手續ヲ厳ト候欲或ハ心得違ニ候共相對ノ取引ヲナシタル時ハ其金高三割ノ罰金ヲ甲付ヘシ且其間ニ紛議ヲ生スル共取上サルヘシ

○國立銀行犯則ノ者処分ノ事

第八条（明治五年壬申八月大蔵省御布達）

第六節若シ其通用ノ際此紙幣受取渡ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所為アレハ其者ハ国法ニ従テ之ヲ罰スヘシ

第十二条

第六節若シ銀行ノ頭取支配人等此定例臨時ノ

報告ヲ怠リテ紙幣頭ノ命スル日ヨリ十日ヲ
超テ差出サヽレハ十日以外ハ一日ニ百円宛
ノ罰金ヲ命ス可シ

第二十五条

第一節凡國立銀行ノ頭取々締役支配人其外ノ
役員ハ私ニ銀行ノ有金ヲ費廢シ又ハ之ヲ掠
取リ又ハ私ノ費用ニ供フ可ラス又頭取取締
役ノ承認ヲ得スシテ紙幣ヲ発行シ預リ証書
ヲ出シ為替手形約定手形諸約定諸貸付等ヲ
ナスヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其

外ノ要書中ニ詐偽ヲ記載ス可ラス又私曲ヲ
謀リテ其銀行ノ株主又ハ官吏商會其他ノ者
ヲ欺キ及銀行実際ノ検査役ヲ欺キ又ハ欺カ
シト謀ル可ラス若シ此数件ヲ犯ス者アラハ
皆国法ニ従テ之ヲ罪科ニ処ス可シ

第二節銀行ノ役員ハ其銀行ヨリ発行スル紙幣
又ハ手形証書ノ類ハ之ヲ剥去リ又ハ切裂キ
又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊付ニスル等ノ一ヲナ
ス可ラス若シ犯ス者アレハ地方官廳ニ於テ
之ヲ裁判シ其金高十倍ノ罰金ヲ銀行ヘ拂ハ

シムヘシ

第三節若シ他人タリトモ銀行ノ役人ヲ誘ヒ右等ノ悪事ヲナサシメヌハ其悪事ヲ助クル者アレハ何等ノ人ヲ不論同等ノ罰科ニ処スヘシ

第四節銀行ノ役員ニ連ナル者ハ仮令其私宅ニ於テモ私ノ商業ヲナス可ラス若シ銀行ノ名ヲ仮リテ自己ノ利益ヲ謀ルアレハ仮令如何ナル処置タリトモ之ヲ不正ノ所為トナシテ相当ノ罪科ニ処スヘシ

第二十六条

第一節國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ自ラ此條例ニ悖リ又ハ銀行ノ役員又ハ株主等ヲシテ猥リニ之ニ戾ラシム可ラス若シ或ハ悖戾ノアレハ此条例ニ於テ其銀行ヘ与ヘタル条理特権ハ悉ク之ヲ取上クヘシ

但其悖戾ノ罪ハ其銀行ヲ鎖店セシムルノ前紙幣頭ヨリ通達シテ其地方官廳ニ於テ之ヲ糺正スヘシ

第二節此条例ノ悖戾若シ頭取取締役ニアリテ

其為ニ株主等ニ損失ヲ受ケシムルヿアレハ
其損失ハ頭取取締役之ヲ任スヘシ

第二十七条

第一節此条例ニ遵テ国立銀行ヨリ発行シタル紙幣ヲ贋造スヿ可ラス贋造セシム可ラス贋造ヲ助ケ又ハ之ヲ勸ム可ラス贋造ト知リテ之ヲ通用セシム可ラス

○清酒濁酒銘酒醤油犯則ノ者処分ノ事

第六則 明治四年辛未七月民部省大蔵省御布達

第一節免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ為メ醸イタシ候者於相顯ハ都テ其品取上清酒銘酒ハ造高百石ニ付金三十五両 濁酒并醤油ハ造高百石ニ付金七十五両 一石ニ付金三分 濁酒并醤油ハ造高百石ニ付金三十五両 一石ニ付金一歩 之割ヲ以科料可申付事

一其年之造高免許鑑札不願受自侭ニ醸造致シ候者於相顯ハ其醸造品ハ勿論兼テ相渡置候免許鑑札ヲモ取上且為科料清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金二十五両 濁酒并醤油ハ造高百石ニ付金十両 壹石ニ付金壹分 壹石ニ付永皇 之割ヲ以取立可申事

一過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金五十両 濁酒并醤油ハ造高百石ニ付金二分 壹石ニ付金一分

之割ヲ以科料可申付事
但取上候諸品并醸造ノ分共入札拂可申付
事

第七則

一右様取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候
取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付若
シ又村町役人等醸造人ノ頼ニ寄不正筋取計
候欲又ハ不正筋ト乍存見遁シ候事共有之於
相顕ハ相当ノ咎可申付事
酒造其外取締規則追加 明治七年一月九日太政官第二号ヲ以御布告

一免許鑑札並ニ造高免許鑑札ハ貸借決テ不相
成候事
但免許鑑札借受醸造候者有之相顕ル丶ニ
於テハ規則第六則密醸ノ廉ヲ以蒙分シ造
高免許鑑札ハ同則第二条自侭醸造ノ廉ヲ
以処分可致貸渡候者ハ免許料五倍ノ科料
金 免許鑑札ハ造高免許鑑札ノ別ナク 可申付事
○銃砲犯則ノ者処分ノ事 明治五年壬申九月廿三日太政官第二百八十二号ヲ以御布告
一銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲弾薬類ヲ窃ニ所持
シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品

取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付事

但取締向ニ関係無之者見当リ訴出候ニ於テハ犯人科料ノ半金ヲ可被下候事

右取上ケ候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺ヘ可差出事

○鳥獸猟犯則ノ者処分ノ事

第八条（明治六年三月十八日太政官第十号ヲ以テ御布告）

一鑑札ヲ遺失スル者及遺失セル鑑札ヲ拾ヒ得ル者ハ直ニ管廳ヘ届出ツヘシ

但其遺失セシ者ハ印鑑遺失例ニ照スヘシ

第十七条

一凡テ再犯以上ノ罰金ハ倍シテ取ルヘシ

但罪ヲ犯シタル時ヨリ十二月内ニ此諸規則ヲ犯スモノヲ再犯トス

第十八条

一諸規則ヲ犯スニ詐偽脅迫ノ挙動アル者ハ本律ニ因リ従重科断ス

第二十条

一何ノ罪ヲ問ハス此諸規則ヲ犯スモノハ鑑札ヲ取揚ケ本罪ヲ科ス

第二十一条

一免許ヲ得スシテ猟スル者ハ五円ヨリ不サ二十円ヨリ不多罰金ヲ出サシム

第二十二条

一此諸規則ヲ犯シテ獲タル鳥獣ハ之ヲ取上クヘシ

罪名	職猟罰金	遊猟罰金
免許ヲ得テ鑑札ヲ持サル者	二拾円	壱円
他人ノ遺失セル鑑札ヲ以猟スル者	二円	拾二円
猟ヲ禁スル地ニ於テ猟スル者	壱円四拾銭	六円
猟ヲ禁スル時限中猟スル者	二円	拾二円
鑑札ヲ貸シ或ハ之ヲ賣ル者	二円	拾二円
鑑札ヲ借リ或ハ之ヲ買フ者	壱円四拾銭	六円
鳥獣ノ死シ或ハ落酔スヘキ餌等ヲ以テ猟スル者	二円	拾二円

○僕婢車馬駕籠犯則ノ者処分ノ事 明治六年一月 大蔵省御布達

一無届ニテ僕婢把置并右ノ諸品物受用致シ居ル者後日露顕致スニ於テハ過料トシテ一ケ年定税ノ五倍ツヽ可為差出事

○牛馬賣買犯則ノ者処分ノ事

第六条 明治五年十一月 大蔵省御布達

右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成万一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顕ル丶ニ於テハ牛馬共取上ケ免許税十倍ノ科料可申付事

○絞油犯則ノ者処分ノ事

第八条 明治四年辛未九月大蔵省御布達

一各管内無鑑札ニテ絞油イタシ候者并免許高ヨリ余分ノ絞方致シ候者有之候ハ丶其器械取上免許料十倍ノ科料金可申付事

第九条但書

但万一私ニ借貸致候者有之相顕ル丶ニ於テハ免許料五倍ツ丶ノ過料金及方ヨリ取立職業差留可申事

○地租雑税延滞ノ者處分ノ事 明治七年六月四日大蔵省第五十六号ヲ以御布達

一租税收納延滞處分ノ儀ハ壬申第二百八十五号公布及ヒ同年第百四十八号当省達ノ趣旨モ有之候處地租雑税皆決期限ノ儀明治六年当省第百八拾七号期限表ヲ以更正相達候ニ付テハ延期加息取立方一般ノ方法更ニ左ノ通相達候事

一五月十五日ヲ以地租雜税收納皆渋期限ト相定候ニ付テハ右日限延滞候分ハ未納金百円ニ付一ヶ月金五拾錢ノ割合ヲ以五月八半月六六七二ヶ月ハ名半月ノ加息取立八月ニ至テ尚未納ノ者ハ断然負代限申付候儀ト可相心得事

但右半月分ノ加息取立候儀ハ五月ニ限リ候儀ト相心得六月以降ノ分ハ渾テ月割タルヘキ事

一右ノ外收納期限異同有之諸物税醸造諸税絞油税或船税等ノ類延滞候分其期限満月ノ分ハ延期二ヶ月間加息取立三ヶ月目負代限申付候儀ト相心得其他処分ノ儀ハ総テ前条ニ照準可致事

○産業資本ノ為メ官林荒蕪地拂下規則ヲ犯ス者処分ノ事

第十条 明治六年十二月廿七日太政官第四百九十五号ヲ以御布告

一地所拂下相願者姓名ヲ他人ニ假与ヘ或ハ反別木数ヲ偽ル等各種奸詐ノ所業有之拂下ノ後発覚候ニ付テハ仮令地所着手或ハ成功ノ後タリ共右地所引揚当人并連累ノ者相当ノ罪

科可申付ハ勿論万一右地所賣買イタシ候後タリトモ仝様處断スヘキ事

○諸税鑑札ヲ遺失又ハ毀損スルモノ處分ノ事 明治七年六月十九日太政官第六十七号ヲ以御布告

酒造 絞油 商船 生糸 牛馬

右諸鑑札遺失又ハ誤テ毀損スル者ハ科料金七拾五戔可申付事

但酒類醸ニ高鑑札并絞油器械鑑札モ同断タルヘキ事

○諸船犯則ノ者処分ノ事

商船規則第十七条 明治三年庚午正月民部省外務省御布達

一免許ナク外国ヘ通船ノ儀不相成候万一相犯スニ於テハ船并ニ荷物共取上此度御咎可有之事

第二十一条

一外国人ト申合近海ニ於テ密商イタシ候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背キ候儀取計候節ハ其船取上急度御咎可有之事

貢米廻漕船難破ノ節心得第七条 明治三年庚午六月民部省御布達

一難破ノ始末都テ不審ノ節無之仝ク不意ニ難

風ニ逢候ハヽ無余儀次第ニ付失墜米ノ有無ニ不拘不及咎ノ沙汰事

但日和見定方ニ付不怠ノ節有之候ハヽ相当ノ咎申付其旨当省并其者在籍ノ地方官ヘ相届可申事

貢米運漕船投荷六条 明治三年庚午七月大蔵省御布達

一難風ニ逢ヒ打米不致シテ不叶時ハ先粮米ヲ打捨其上ニテ貢米ヲ刎捨可申候若粮米ヲ残置ニ於テハ不残取上可申事

第十条

一若シ打米抔ト偽リ聊ニテモ隠置候儀於有之ハ其米高ノ倍数外ニ一名ニ付金五両宛ノ割合ヲ以科料為差出以後船稼差止可申候事

第十一条

一粮米不足ニテ買入候節ハ其所ノ慥成者ヨリ証書受取可申若粮米ト偽リ商ヒノ為メ買入ニ於テハ其有米不残外ニ銭拾五貫文科料トシテ取上可申候事

第十二条

一難澁者ニテ科料差出兼候ハヽ其者雇主ヨリ

取上可申候事

貢米運送約定 明治五年壬申十一月大蔵省第百六十七号ヲ以御布達

一 物捨米并修繕料共地方役人之浦状或ハ確実ノ証書無之ニ於テハ前条ノ分配政府ヘ引受等不相成儀ハ勿論其次第ニヨリテハ厳重ノ御咎或ハ罰金可有之事

第二十二条

一 此委任年限中大蔵省ハ其都合ヲ以他ノ會社又ハ商會社ヘ貢米運送ノ事ヲ不可命尤当會社不正有之或ハ不正ノ事ヲ謀リ或ハ不当ノ運賃ヲ申立又此約定ノ條件ヲ履行セサル片ハ此委任ヲ免シ且相当ノ御咎且科料ヲモ可被申付事

港内取締規則第一条 明治六年一月十二日太政官第八号ヲ以御布告

一 凡ソ諸商船西洋形日本形ニ不拘其船主住居ノ地乃チ其船定繋ノ港ヨリ或ル他港ヘ出帆スルトキハ其港船改所又ハ其節ノ役所ヨリ其船到着スヘキ港ニアル船改所或ハ其節ノ役所ヘ宛タル左ノ雛形ノ通ナル添書ヲ受取リ出帆致スヘク若シ右ノ添状ヲ所持不致他ノ

港ヘ入津スルトキハ其港ニ於テ船ノ大小ニ從ヒ相当ノ科料可申付事

但雛形茲ニ畧ス

第二条

一船主住居ノ地乃チ其船定繫ノ地ヘ帰着ノ時ハ出帆ノ港ニ於テ受取候添書ヲ其所ノ船改所又ハ其筋ノ役所ヘ可相納若シ等閑ニ致シ候者ハ船ノ大小ニ從ヒ相当ノ科料可取立事

第三条

一凡其港ヘ入津ノ諸船西洋形日本形者着後二十四時ノ間ニ其港船改所又ハ其筋ノ役所ヘ左ノ届書案ノ通船税鑑札荷物送状相添届出許可ヲ受ル上荷物揚陸可致若シ等閑ニ致シ候者ハ船ノ大小ニ從ヒ相当ノ科料可取立事

但届書様式ニ畧ス

第六条

一郡船ノ類或ハ積荷船ニ候トモ往来ノ場所差定候分譬ヘハ東京ト横濱大坂ト神戸ノ間ニ限リ往来イタシ候類出入ノ度毎取立候テハ営業ノ差支ニモ可相成候間右等ハ一ケ月分出入ノ度数ヲ計リ前章規則ノ割合半方ヅ

取纏其月初メニ一時上納可致其時ハ検査済ノ票札可相渡若シ納方延引致シ候片ハ相当ノ過料可申付事

第七条

一凡諸船出入共開港場ハ勿論其他ノ港内ニ於テモ荷物或ハ荷足品ヲ揚卸スル片ハ波戸場ノ順序揚卸ノ時間等総テ其港ニ定メタル法則ヲ守ルヘシ若シ之ヲ犯ス者ハ相当ノ過料可申付事

第八条

一無鑑札ニテ入港ノ船ハ辛未八月中相達候船税規則第三則ニ照準シ百石ニ付金五円ノ割合ヲ以罰金可取立事

危害品積込規則第一条 明治六年八月九日太政官第二百九十二号ヲ以御布告

一火薬硝石硫黄之類及ヒ発火シ易キ製茶品其他油脂醤液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候片ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送状ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難受負會社等ノ兼諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手数無之尋常

ノ荷物ト伴リ之ヲ船積イタシ或ハ船積セン
ト謀ル者ハ金五百円以内ノ罰金ニ処スヘキ
事

第五条

一船長及ヒ運漕会社等荷主ト申合此危害品ヲ
尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀
ル者ハ金五百円以内又之ヲ見出ト雖モ官ニ
訴ヘ出サル片ハ金二百円以内ノ罰ニ処スヘ
キ事

船税規則第三則 明治五年壬申八月 大蔵省御布達

一各港入津ノ船々鑑札為差出一々相改可申若
無鑑札ノ船有之候ハヽ常税五倍ノ罰金取立
可申且他管内ノ船ニ候共仝様罰金取立候上
其手續詳細ニ其本管廳ニ可申送事
但発令前航海イタシ未本管下ヘ帰船無之
鑑札所持不致向モ可有之右ハ此限ニ無之
事

諸遊船 屋形船 屋根船 網船 猪牙船等ノ類 明治六年一月大蔵省御布達

一無届ニテ僕婢抱置并右ノ諸品物受用致シ居
ル者後日露顕致スニ於テハ過料トシテ一ケ

年定税ノ五倍ツヽ可為差出事

艀漁船并ニ海川小廻船等船税規則

第五則 明治七年二月十八日太政官第廿一号ヲ以御布告 但明治八年一月一日ヨリ御施行

一無検印ノ船及ヒ船税免除ノ検印相受ケ置他ノ稼方ニ相充候船々有之ニ於テハ其船相当税銀五倍ノ罰金可申付事

○租税不納ノ者処分ノ事 明治六年十二月廿五日太政官第四百二十二号ヲ以御布告

租税不納ノ者負代限ヲ以取立ヘキ時ハ素ヨリ他ノ負債ニ関係致スヘキ筋ニ無之ニ付自今六十日間掲示スルニ及ハス直ニ処分可致候条此

旨布告候事

○出版犯則ノ者處分ノ事

第七条 明治五年壬申正月文部省御布達

一官ニ告スシテ書ヲ出版スル者並ニ之ヲ賣弘ムル者アレハ版木及ヒ製本ヲ没入シ罰金ヲ出サシムヘシ

第八条

一官許ヲ受ケスシテ偽テ官許ノ名ヲ冒ス者ハ罰金ヲ出サシム

但シ未タ発兌セサル者ト雖モ亦然リ

第九条

一他人蔵版ノ図書ヲ私ニ翻刻スル者ハ版木製本尽ク官ニ没入シ其事情ニ依テ罰ヲ議スヘシ

一出版ノ条例ヲ犯ス者ハ所在官廳ニ於テ糺判ス

○新閉紙犯則ノ者処分ノ事

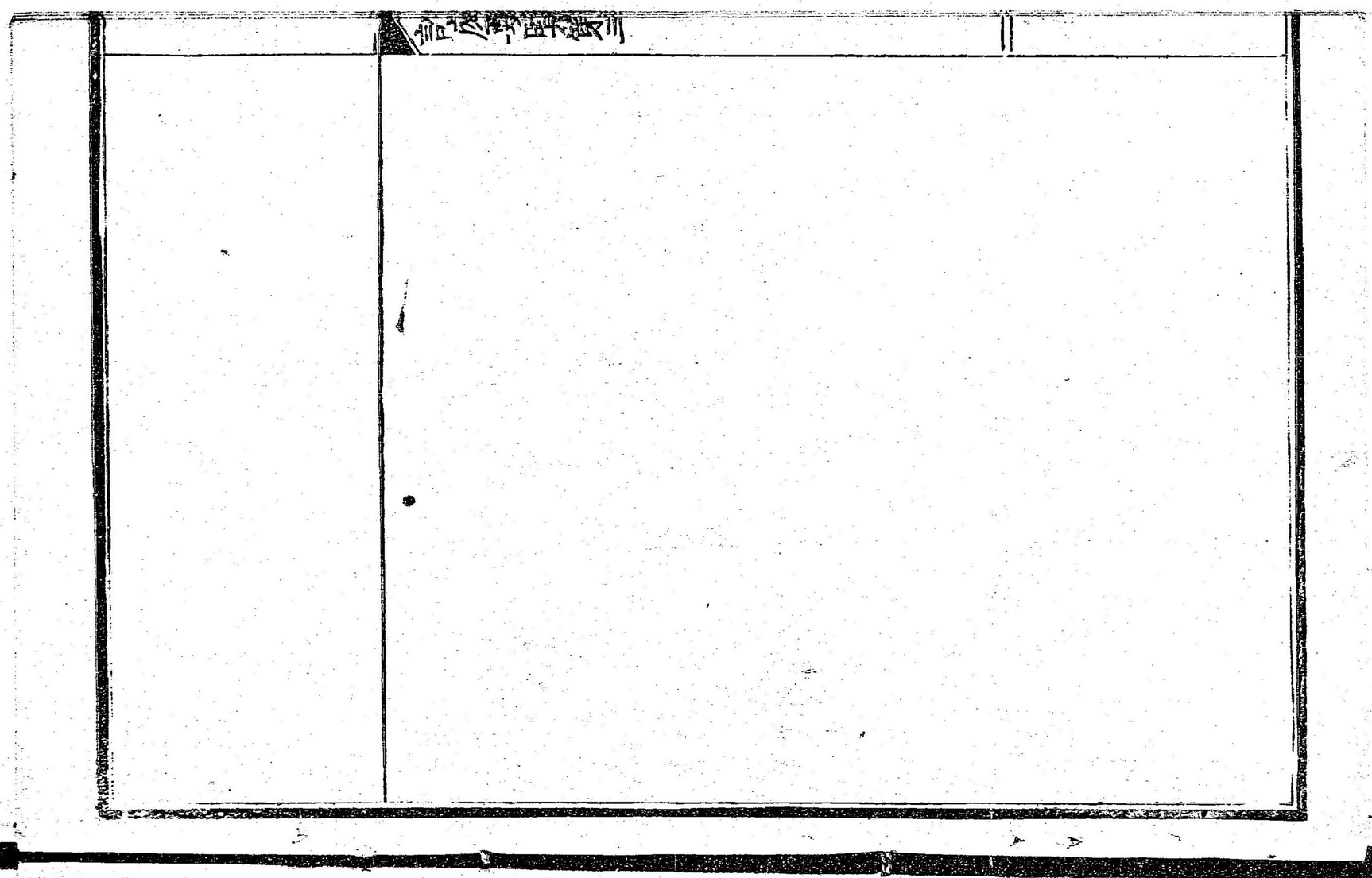
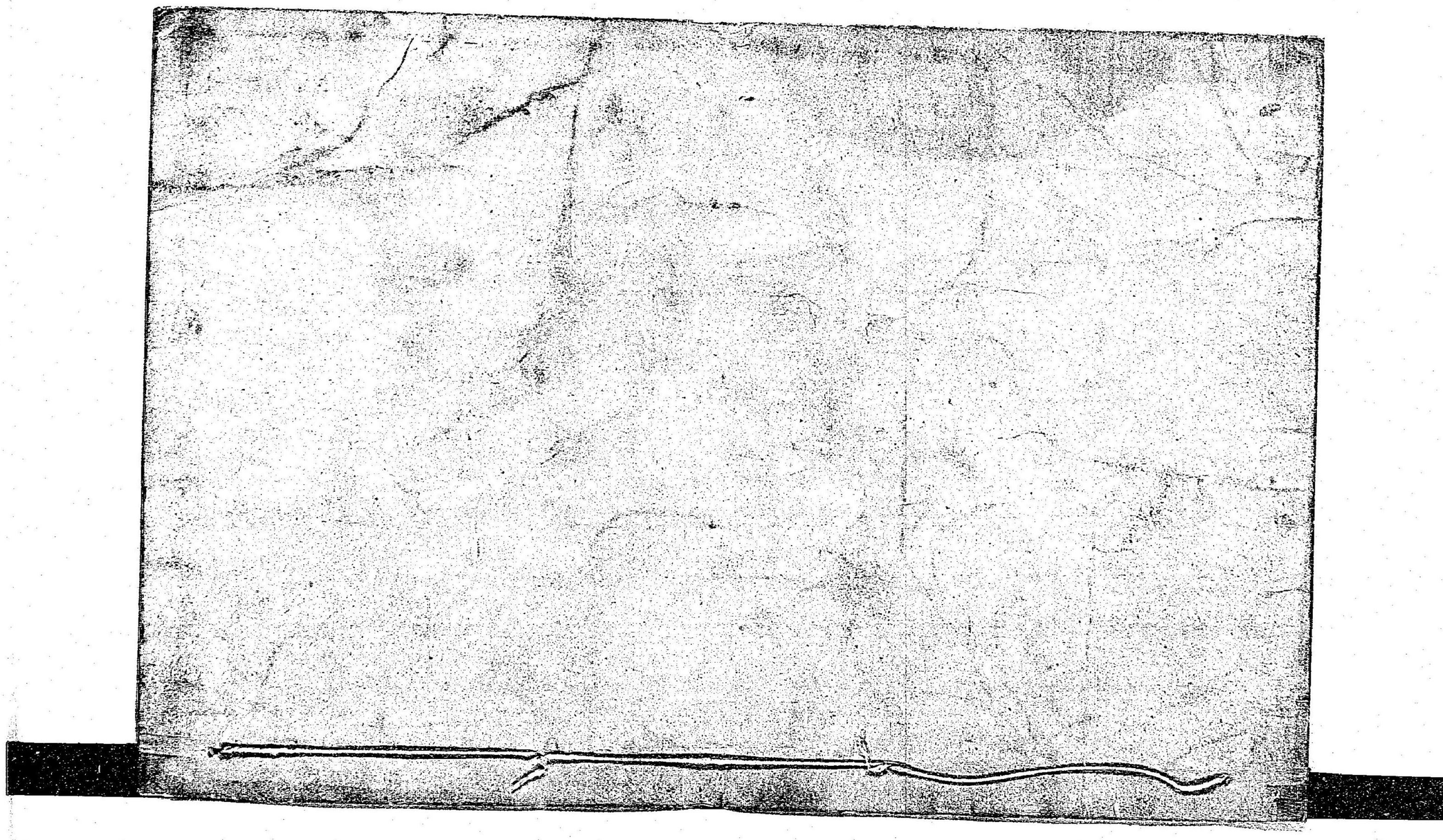
第十八条 明治六年十月十九日太政官第三百五十二号ヲ以御布告

一禁令條例ニ背キタル時ハ律ニ照シテ處断スヘシ

○地券犯則ノ者處分ノ事

第十二条 明治五年壬申二月大蔵省御布達

一亦後地券ヲ不申受密賣買致シ候者ハ其地所并代金共取揚可申事

致連印候村役人ハ地代金ノ三分通罰金可申付事

訟庭要覽第三終